

セルフモニタリング報告書(令和4年度分)

別紙6

令和 5 年 4 月 21 日

施設名 苦小牧市福祉ふれあいセンター
 指定管理者名 労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団
 所管課名 障がい福祉課

モニタリング項目	指定管理者 コメント	自己評価
1 事業計画の達成度		
事業計画の内容に従い、適切に施設の管理運営が行われたか。	概ね計画通り	Ⓐ・B・C・D・E
施設利用者数の増加、利用率の上昇、利用者利便性の向上などの目標は達成されたか。	概ね達成	Ⓐ・B・C・D・E
施設の設置目的にあった成果は上がっているか(目標値を設定していないその他の施設)。		A・B・C・D・E
自主事業は計画どおり行われたか。	新規事業については、職員確保の面で遅れてしまったが計画通り実施	Ⓐ・B・C・D・E
地域、関係機関、ボランティア等との協働・連携に向けた取組が行われているか。	町内会や関係機関との連携、ボランティアの受け入れを積極的に実施	Ⓐ・B・C・D・E
2. 利用者の満足度		
利用者の満足が得られているか。	アンケート結果から概ね高評価を頂いている。「やってみたいこと」の項目にたくさんのご意見を頂けた。	Ⓐ・B・C・D・E
利用者の意見・要望の把握は適切に行われているか。	ご意見箱の設置、利用者アンケートの実施。日常的に話しやすい関係性作りに努めている。	Ⓐ・B・C・D・E
利用者の意見・要望・苦情への対応は十分行われたか。	真摯に取り組んでいる。	Ⓐ・B・C・D・E
3 管理運営の効率性		
経費の低減が図られているか。またその取組は十分か。	光熱費、消耗品費の節約等、職員全員で取り組んでいる。 生活介護に関しては、人件費や車両維持費の削減に取り組んだ。	Ⓐ・B・C・D・E
一部業務の再委託に要している経費は、適切な水準か。また、経費が最小となるような取組はされているか。	可能な限り複数業者と折衝し、お見積りを頂き進めた。	Ⓐ・B・C・D・E
収入増加のための取組はされているか。	生活介護に関しては、新規契約獲得に向けた実習体験、見学等を積極的に受入れた。	Ⓐ・B・C・D・E
4 適正な管理運営		
人員配置及び職員の管理体制は適正か。	適正に実施	Ⓐ・B・C・D・E
職員の能力向上に向けた取組は行われたか(研修等)。	各種研修、OJTの実施	Ⓐ・B・C・D・E

施設の平等な利用等について、適切に処理されているか（使用料の減免、還付含む。）。	条例、規則及び市が定める基準に従い、適切に処理した。	Ⓐ・B・C・D・E
利用者の個人情報等について適正に管理が行われていたか。	適正な管理に努めた。	Ⓐ・B・C・D・E
収支の状況に不適切な点はないか。会計処理は適正か。	複数体制で管理し、適正に処理。	Ⓐ・B・C・D・E
施設・設備等の法定点検及び保守は、適正に行われているか。	計画通り、適正に実施。	Ⓐ・B・C・D・E
書類・備品等の管理は適正に行われているか。	適正に管理	Ⓐ・B・C・D・E
安全対策（事故防止等）は十分だったか。	担当課や発達支援課さんと都度確認しながら安全管理を行った。	Ⓐ・B・C・D・E
法令・協定書等を遵守し、適正管理が行われているか。	適正に管理	Ⓐ・B・C・D・E
5 地域貢献		
雇用・資材調達・再委託等、地域貢献に努めているか。	地元企業との取引	Ⓐ・B・C・D・E

A: 目標、事業計画を上回る取組がされており、管理運営状況は極めて良好である。

B: 目標、事業計画どおり又はそれ以上の取組がされており、管理運営状況は良好である。

C: 概ね目標、事業計画どおり行われおり、管理運営も適正で、特段問題は見られない。

D: 目標、事業計画において一部未達成があるなど計画内容を下回っており、又は管理運営において一部不適正な部分があるなど、改善が必要と認められる点がある。

E: 目標、事業計画の内容を大幅に下回っており、かなりの部分において改善が必要である。

自己評価 ★★★★★

（最大評価を★5つとし、5段階評価で星を塗りつぶしてください。）

指定管理者の自己評価(全体を通して)

2年目となった令和4年度、施設管理は、コロナウイルス感染症の影響もほぼなく運営することが出来ました。概ね事業計画通り進めることが出来、ようやく通常業務が回り出したと感じています。だからこそ、まだまだ試行錯誤を重ねることが必要だったり、安定しない部分があることは致し方なく、大事な1年だったと評価しています。組合員(仲間)の中にも、少しずつ協同の精神が浸透しつつあり、ようやく我々ワーカーズコープぽっけ地域福祉事業所が担わせて頂く意味を感じながらの運営が始まったと感じています。昨年度同様、障がい福祉課さん、発達支援課さんとは様々な場面でご相談し、一緒に考えて頂きながら進めていることに感謝致します。ありがとうございます。

施設管理業務

年度末には、コロナウイルス感染者が減少傾向となり、3月13日からは、マスクの着用について緩和されました。それを機に貸館部門で利用者に対するマスク着用・貸室人数の制限・消毒について基準の改訂を行い、文書、点訳、朗読CDを配布し、周知を行いました。

昨年同様に敷地内景観にもこだわり、草刈りやお花を植える等の取り組みをし、少しでも利用者やご近所の方の気持ち明るくなればという気持ちで取り組み、お褒めのお言葉もいただきました。

今年の冬期期間における降雪量は昨年ほど多くはありませんでしたが、除雪業者に依頼するとともに、除雪車ではできない箇所の除雪は職員が総出で対応し、利用者にはご迷惑をかけることなく、今シーズンを終えることが

出来たと自負しております。そんな中で発達支援課、呼吸器内科クリニック様からは温かいお言葉を頂き、関係各所の皆様に温かく見守っていただきながらの運営が出来ていることに感謝いたします。

清掃業務も自前で行っていますが、清掃部門の職員が日々細かい部分にも目を配りながら、仕事の質を高めようと研修等実施しました。施設管理職員全員で協力し、館内及び屋外の美化に加え、コロナ対策を含めた衛生管理を徹底しました。

利用者やご近所の方からのご意見はしっかりと受けとめ、真摯に向き合っています。長年ご近所の方が訴えられていた不安に寄り添い、迅速に対応し解決しました。ご近所の方からのお困りごとに寄り添い共に考えた結果、新規のサークル立ち上げと施設利用に繋がり、その方は毎回笑顔で利用されています。

生活介護

2年目の今年度も色々あり、管理者個人の心情でいうと疲弊した1年となりましたが、働く仲間たちの頑張りがあり、あいあいにとっては各処で前進していると実感できる1年となったことも間違いありません。

この事業の目的や事業所の存在意義について、こんなに考え、話すことは無いのではないかと思う程、考え、仲間や利用者へ様々なアプローチで訴え続けました。本当にこのサービスを必要としている方に届け、知ってもらい、利用につなげ、実際利用したことで良い結果(利用者にとっての最善の利益)につながる。そんな利用者の増やし方、知ってもらい方、そして利用した方が「あいあいに来てよかった」と思ってもらえるような場作りを継続していきたいと思います。

私たちは「生活介護の事業運営がしたい」訳ではありません。目指すところは「まちづくり」です。この事業を通し、誰もが安心して自分らしく暮らし続けられるまちづくりを目指します。それが利用者にとって、社会で生きてくうえでの最善の利益となり得るからです。

経営に関しては、1年2年とあの手この手やってきましたが、大変難しさを実感しているところです。都度ご相談もさせて頂くことが出来ていますが、3年日本格的に経営改革に着目して今後の事業継続に関して検討する時期かと考えています。

この事業を継続させることで現在利用している方の居場所を守ることが出来るのはもちろん、身体に障がいがある方も地域の中で暮らしていくこと、かつ地元苦小牧でということを選択肢の一つとして考えることがスタンダードになることを苦小牧市や関係機関と一緒に目指したいです。